

ほーほーどり

我孫子野鳥を守る会

No. 199

2007年

11 ~ 12月号

行 事 案 内

11 月手賀沼探鳥会とカウント

期 日 11月18日(日) 雨天中止
(定例の第2日曜日はバードフェスティバルが開催されますので今月は第3日曜日になっています。お間違えのないように！)

集 合 我孫子市役所 午前9時
案 内 この時期湖面にはカモさんたちが渡ってきます。何種類のカモさんを探することができますでしょうか？上空には鷺、鷹類のチョウゲンボウやミサゴ、田んぼにはタゲリを見つげられることを期待しましょう。

解 散 正午
担 当 小林(寿)、野口(紀)、桑森、北原、佐々木、松田

12 月手賀沼探鳥会とカウント

期 日 12月9日(日) 雨天中止
集 合 我孫子市役所 午前9時
案 内 今年最後の定例沼探鳥会です。手賀沼の水鳥が勢ぞろいし、上空のワシタカ、田圃のタゲリやタヒバリなど、毎年最も多くの鳥が観察できる季節です。そして葦原の小鳥の地鳴きにも耳を澄ましましょう。

解 散 正午
担 当 桑森、松田、北原、佐々木、小林(寿)、野口(紀)

渡良瀬遊水地探鳥会

期 日 11月23日(金) 雨天中止
集 合 我孫子駅北口 午前8時
案 内 渡良瀬遊水地は面積約33km²にわたる利根川支流渡良瀬川の広大な調整地で貯水池と葦原で構成しています。初秋には冬鳥で賑あい、谷中湖には多種多数の水鳥、葦原にはカシラダカ、ベニマシコなどの小鳥とワシタカ類が観察されます。特に、タカ見台ではミサゴ、チュウヒ、ハイロチュウヒ、運がよければコミミズクにコチョウゲンボウ等々。広大な遊水地でじっくりとカモ、小鳥、猛禽を観察しましょう。

持 物 観察用具、昼食(途中購入可)
交 通 自家用車分乗です。便乗者は一人1,500円を運転者にお渡しください。申し込みの際、自家用車提供可能な方はその旨ご連絡ください。

申 込 11月15日(木)締め切り
桑森亮まで
〒270-1143
我孫子市天王台2-15-17
Tel/Fax: 04-7182-3149

担 当 桑森、小玉

涸沼探鳥会

期 日 12月30日(日) 雨天中止
 集 合 我孫子駅北口 午前8時
 持 参 観察用具、雨具、防寒具、昼食(途中購入可)
 案 内 年の瀬も押し迫った何かと慌ただしいこの時期、恒例となりました探鳥会です手賀沼とは比較にならない水鳥の種類と数が観察できると思います。又、2年連続不漁だった涸沼の大粒しじみも、今年は大いに期待できます。
 交 通 自家用車分乗です。一人2,000円を運転者にお渡し下さい。申込の際、自家用車提供可能な方はその旨をご連絡下さい。
 申 込 北原建郎まで
 〒270-1166
 我孫子市我孫子 3-36-1-901
 Tel: 04-7183-4683
 担 当 北原、田丸

波崎探鳥会

期 日 1月3日(木) 雨天中止
 集 合 我孫子駅北口 午前8時
 持 参 観察用具、雨具、防寒具、昼食(途中購入可能)
 案 内 例年50種以上が記録されている水鳥中心の変化に富んだ探鳥会です。ミコアイサ、ミヤコドリ、シノリガモ、カンムリカイツブリ、ハジロカイツブリ等の集団に会えた時には感激です。現地の状況により、最終の立ち寄り場所が変わります。
 交 通 自家用車分乗です。便乗者は一人1,500円を運転者にお渡し下さい。申込の際、自家用車を提供可能な方はその旨ご連絡ください。
 申 込 松田幸保まで
 〒270-1166
 我孫子市我孫子 1780-32

担 当 松田

手賀沼清掃

手賀沼ふれあい清掃に参加しましょう!
 期 日 12月2日(日)9:00~11:30
 集 合 場所 手賀沼公園多目的広場
 8:45分集合
 清掃開始 9:00「ふるさとコース」
 (手賀沼公園~根戸新田)
 清掃終了 11:00~11:15
 じゃんけん大会
 終了挨拶 11:15~11:30
 閉会挨拶、参加記念品の配布
 解 散 11:30
 担 当 事務局
 持 参 する 物 軍手、火バサミ等
 (荒天の場合12月9日(日)*実施・中止のお知らせは8:00よりレボカ'ド'で(0180-99-3173)
 詳しくは11月16日付けの「広報あびこ」をご覧ください。

芋煮会

楽しい芋煮会で今年の行事の締めくくりとします。五本松公園へお集まりください。全員で担当しますので多数の参加を御願い致します。ご家族の方の参加も大歓迎です。
 期 日 12月16日(日) 雨天中止
 会 場 五本松公園キャンプ場
 集 合 会場 10:00
 参加費 大人1,000円、中学生以下800円
 持 参 汁椀、箸、おにぎりなど
 酒類持込歓迎
 担 当 全幹事
 申 込 北原建郎まで(締切12月10日)
 〒270-1166
 我孫子市我孫子 3-36-1-901
 Tel: 04 7183 4683

第7回ジャパンバードフェスティバル

今年も我孫子市において11月10日(土)、11日(日)の2日間に亘りジャパンバードフェスティバル(JBF)が開催されます。親水広場(水の館)、手賀沼公園、我孫子市鳥の博物館等が会場です。メイン会場は親水広場と手賀沼公園ですが、学生、NPO 団体、光学器械関係は手賀沼公園会場の予定です。

当会の展示ブースは手賀沼公園会場です。当会の展示内容については以下のようになります。9日(金)は当会の展示ブースの準備・設営を9時から13時の間に行ないます。お手伝いできる方は手賀沼公園会場にお越しください。

[当会のイベント]

手賀沼公園会場：パネル展示、紙芝居、庭に鳥を呼ぶ、えさ台の販売

親水広場会場：噴水前定点バードウォッチング、船上バードウォッチング

他の団体のイベントについては、広報あびこの10月16日号もしくは11月1日号をご覧ください。会員の皆様のお手伝いをお願いします。担当：幹事全員と会員

行 事 報 告

8月手賀沼探鳥会とカウント

連日の猛暑を考慮し、いつもの第二機場からの徒歩をやめて「ひどり橋」スタートとした。その代わりに手賀沼フィッシングセンター東側の休耕田を探鳥した。

日時 2007年8月12日 9:00~12:00

晴れ、気温33、南風(微風)

<認めた鳥> カイツブリ、カワウ、ゴイサギ、アマサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、アオサギ、コブハクチョウ、カルガモ、コチドリ、ムナグロ、トウネン、タカブシギ、キジバト、カワセミ、コゲラ、ヒバリ、ショウドウツバメ、ツバメ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、ウグイス、オオヨシキリ、セッカ、ホオジロ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス 計31種

<参加者> 大久保陸夫、北原建郎、吉田隆行、染谷迪夫、宮下三禮、西城猛、諏訪哲夫、野口隆也、谷山晴男、川田光男、小口勝久、

西巻実、六角昭男、坂巻宗男、坂巻はなの、類地佑子、天野正臣、天野睦子、桑森亮、鈴木静治、石渡成紀、佐藤弘美、小川裕加、中野久夫、間野吉幸、西嶋昭生、西嶋みどり、田中功、木村稔、猪爪敏夫、松本勝英、田丸喜昭 <担当>松田幸保 参加者33名

<カウント班> 木村稔、田中功、桑森亮、染谷迪夫

調査種	上沼	下沼	合計
カイツブリ	4	7	11
カワウ	55	39	94
ゴイサギ	10	0	10
ダイサギ	3	3	6
チュウサギ	0	3	3
コサギ	6	3	9
アオサギ	0	2	2
コブハクチョウ	12	1	13
カルガモ	2	0	2
オハソ	8	2	10
合計	100	60	160

9月手賀沼探鳥会とカウント

調査日時 2007年9月9日 9:00~12:00
晴、気温 31、風弱

<認めた鳥> カイツブリ、カワウ、アマサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、アオサギ、コブハクチョウ、カルガモ、バン、オオバン、ユリカモメ、アジサシ、キジバト、ヒバリ、ショウドウツバメ、ツバメ、イワツバメ S P ハクセキレイ、モズ、オオヨシキリ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス 計 26種

番外 カワラバト

<探鳥班> 諏訪哲夫、吉田隆行、大久保陸夫、間野吉幸、天野正臣、天野睦子、野口隆也、類地佑子、榎本右、松田幸保、松本勝英、松本葉子、川村美智子、川村美恵子、宮下三禮、中野久夫、片桐邦夫、小林寿美子、玉井修一郎、佐藤弘美、常盤孝義、桑森亮、渡辺政一、西城猛、小口勝久、(担当)北原建郎
参加者 26名

<カウント班> 木村稔、田中功、佐々木隆、染谷迪夫

調査種	上沼	下沼	合計
カイツブリ	8	6	14
カワウ	15	37	52
ダイサギ	10	1	11
チュウサギ	0	6	6
コサギ	6	5	11
アオサギ	1	2	3
コブハクチョウ	7	9	16
カルガモ	8	7	15
オオバン	0	2	2
ユリカモメ	0	10	10
アジサシ	0	5	5
合計	55	90	145

<ピオトープ班> 猪爪敏夫、鈴木静治、谷山晴男、川田光男

三番瀬・谷津干潟探鳥会

8月26日

酷暑の探鳥会

シギ・チドリ数多くの出現に感激

鈴木静治

記録的な残暑が続き、8/26(日)当日も、朝から猛暑にもかかわらず我孫子駅に集合した参加者約十名、途中・現地参加者数名であった。この暑さの中、わざわざ日差しの強い海に鳥を見に行くとは、一般の人からみれば物好きとみえるらしいが、愛好者となると、好きなもの・珍しいものとなると、火の中・水の中でも行くものである。また春・秋の季節限定のシギ・チドリとなれば、年2回の七夕のようなものである。年2回会える、シギ・チドリ・カモメは種類が多く、日頃あまり多く観ていないのですぐ鳥の名前が出てこないところがおもしろい。まあ、探鳥の場数を踏み少しずつ慣れていくより良い方法はないかと思っている。今回は三番瀬で大発生のプヨ、大汗に耐えての観察(私の場合汗かきのため、2.5Lの水を飲む)であったがシギ・チドリだけで約20種類、多く見られたのは、トウネン、キアシシギ、オオソリハシシギ等、珍しいところでは、ハジロコチドリ、キリアイ、オオキアシシギ等であり、得た収穫は大きかった。

以下、三番瀬、谷津干潟の順に探鳥の印象を記します。

まずは三番瀬についてですが、私は本会に入会して4年目になりますが、なんと三番瀬は初めての探鳥になりました。この4年間三番瀬の探鳥会の企画がなかったこと、都内での写真展で古今の三番瀬干潟の様子を見ていたので、ぜひとも一度行ってみたいと思っていた所、本企画がなされ、一週間前、下見に幹事の榎本さんと行かれる幹事の松田さんに我孫子駅でお会いしたので、行くことにしたものです。8時に我孫子駅改札口に集合、8時過ぎに我孫子を出発し、新松戸、市川塩浜経由で二股新町まで行き、二股新道からバスで船橋海浜公園、あとは歩いて9時半頃、ちょうど大潮の干潮時の三番瀬に着きました。三番瀬のある海浜公園にはプールが

あり、小中学校の夏休みが終わり近いため家族連れが多く、また海岸でテントを張りバーベキューを楽しむ人、潮干狩りを楽しむ人、バードウォッチャーさらにハングライダーも1人いました。東京湾に向かって左側の砂浜を歩いていくと、干潟の水溜り、打揚げられた水草に群れている小鳥がいた。スコープで観ると可愛い顔をしたトウネンである。忙しく動き、飛びまわるトウネンに見惚れる。キアシシギ、ウミネコも多く観られた。ほかにはソリハシシギ、イソシギ、キリアイ等が少数であるが見られた。もっともこの時は暑くて滴り落ちる汗、近くを飛びまわるブヨと戦っているかんで、鳥の観察どころではなく、家に帰ってデジカメをみたらキリアイが写っているのを見つけたものです。

出発の11時まで相当時間があつたので、右側の砂浜を歩くと中野さん、吉田さん等が干潟に入り何か観察している様子、遠くの方でアジサシ、カモメが群れをなして飛びあがるのが見えた。なお三番瀬でツバメ、セッカがみられたのには驚いた。ツバメはブヨがいるためでわかるが、河原の葦原・稲田で飛んでいるセッカは日頃見慣れているが、海岸を飛ぶセッカは初めてであった。セッカもブヨを食べるのだろうか。間野さんによれば三番瀬ではいつも見えるとのことであった。

そうこうする内に、11時になったので集合し、11:30頃のバスに乗り、駅近くは歩きで、二股新町まで行きそこからJRで南船橋に12時頃到着し、お弁当を駅のコンビニで調達し、谷津干潟に向かった。干潮時の干潟の鳥を観察しながら谷津干潟自然観察センターまで行きセンター前の、木陰のベンチで、昼ご飯を食べ休憩の後13:30-15:00より探鳥を再開した。センターより干潟を反時計向きに約半周弱歩き観察することになった。観察センターを少し行くと、以前からよくセイタカシギがみられる場所で、他の探鳥数グループが鳥を観察している。一緒になってスコープで観察すると、オオソリハシシギ、キアシシギ、コサギが多かったが、ダイゼン、セイタカシギ、キリアイ等がいる。さらにコサギをみていると、その中に、足は黄色、脚は淡黄色で、嘴のピンクがかった個体がいる。カラシロサギではないかと周囲の他のグループで言っているのがきこえた。諏訪さんが

観察センターで確認してみると、コサギではないかとのことであった。私はほとんど動かずに1ヶ所で観察した。ある程度鳥がいる場所で観察していると他の種類の鳥が来て、今度はその鳥を見るといった具合である。鳥も追いかけると逃げるが、こちらがじっとして木や石になるとかえって寄って来るものと思った。

観察終了の15:00になったので、センター前の芝生に集合し、鳥合わせをした後、現地での解散となった。

すぐに帰ろうと思ったが、私は今日、観察センターで探鳥をしていないのに気がついた。諏訪さんは未だ見ていない種類の鳥がありもう少し探鳥をするとのことなので、諏訪さん同様、私も観察センターに入りガラス越しに観察することにした。淡水池ではセイタカシギに混じってタカブシギが、近く稲の間に見えた。あまりに近すぎてスコープでは入らないくらいであった。続いて海水の干潟側を見ると、干潮より4時間経つているので観察し始めた頃よりも、相当水位が増していた。そのため、観察センターの前の岸には、シギ、チドリがいるわ、いるわ・・・。少しづつスコープを水平に移動させ見ていくと、地面に腹をつけて休息しているもの、片足で立ち睨をとじているもの、場所取りで争っているもの、仲良く休んでいるもの等色々であった。見られたのは、キリアイ、キアシシギ、ソリハシシギ、トウネン、ハマシギ、イソシギ、コチドリ、セイタカシギ等であり、まさに鳥のサンクチャリーの趣であった。結局、観察センターでは、15:00-16:30冷房付きの快適なパラダイスで鳥三昧のひとつきを過ごした。干潮時に干潟にいた鳥が、今は海水位が高くなったためセイタカシギ、オオソリハシシギ等の脚の長い鳥を除き、脚の短いシギ・チドリが、脚のつく岸边に集まったものと考えられた。多くの種類の鳥がこの快適なパラダイスで、一堂に会してみられたことは、まさに「残りものには、福がある」の諺が当てはまるかなと考えたりした。閉館時間の5時に近くになったので、4時半頃センターを後にし、帰路についた。夕暮れの干潟にシギ・チドリの飛翔する光景を想像しながら...

最後に本探鳥会を企画された、幹事の榎本

さん、松田さんに感謝しつつ、筆を置きます。

【幹事報告】

<認めた鳥> カイツブリ、カワウ、ダイサギ、コサギ、アオサギ、カルガモ、スズガモ、トビ、ハジロコチドリ、コチドリ、シロチドリ、メダイチドリ、オオメダイチドリ、ダイゼン、キョウジョシギ、トウネン、ハマシギ、オバシギ、コオバシギ、ミユビシギ、キリアイ、アオアシシギ、タカブシギ、キアシシギ、オオキアシシギ、イソシギ、ソリハシシギ、オグロシギ、オオソリハシシギ、セイタカシギ、ウミネコ、アジサシ、コアジサシ、ツバメ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、セッカ、スズメ、ムクドリ、オナガ 計 40 種

<参加者> 中野久夫、猪爪敏夫、天野睦子、諏訪哲夫、鈴木静治、西巻実、間野吉幸、石渡成紀、桑森亮、吉田隆行、柴本三弘、柴本法子（担当幹事）榎本右、松田幸保
参加者 14 名

白樺峠タカの渡り探鳥会

9月22日、23日

鳥好きな仲間達はどなたも同じでしょうが私も、何とかタカの渡りとゆうものを見たいと、チャンスを狙っておりました。そして実現。申し込みが一番だったとか、お笑いください。

当日は予定通り 8 時出発、三連休の中然したる渋滞もなく一時間遅れの 4 時に白樺峠に着きました。峠に登るため最後の 15 分は息も絶え絶えの苦しい登りでした“タカ見の広場”に着くと先ず驚いたのは、美しい空、美しい山々でわななく人の多さでしたワイバードを始め日本野鳥の会いたばし探鳥会等々グループ連れが多いようでした。当日は木に止まっているハチクマのオスの他 2 羽を見るだけで、明日に期待をもって宿に入りました。鎌倉時代からの温泉につかり、山の宿らしい、料理をいただき、女性 4 人は早めにやすむことに。

翌日の早朝探鳥はカワガラス、キセキレイ等にあつたとの事予定を 30 分繰り上げ 8 時には宿を後にする。峠に着くと、すでに昨日と同じ位の人、人、人それに犬 2 匹、けれど

も山は深い霧に隠され、何重にもなる稜線も見えない。それぞれに何とか自分の観察ポイントを探しながら確保してご近所と話しながら晴れるのを待つ。私は中野さん、野口夫妻と同じ段。

お隣のいかにもベテラン風の若いご夫婦がとても親切で色々と教えてくださる。ハチクマのオス、メスの見分け方とか、のどに食物を貯めていることとか。そして何よりも私の好きなツミを是非見たいのだと伝えると、それを探してあれがツミですよ、チョコマカしているでしょうと教えてくれた。何よりも嬉しかった。帰りにお礼を申し、ブログでも出していらっしゃるならと思ってお尋ねしたところ、彼等は B I R D E R に識別の記事を載せている渡辺修治氏と三河一郎氏とのことでした。これも嬉しい珍事でした。

晴れてくると重なった山々の間の松本方面から一羽、また一羽と黒い点が見え旋回しながらワシの姿を現す。ベテランはそれで種がわかるらしい、ゆうゆうと飛び上昇気流をみつけてそれに乗りものすごいスピードで西の空に消えて行きます。これはとても雄大です。

染谷さんの報告では 23 日は人 167 人、タカ 67 羽との事でしたが観察地点の合計カウントで 500 羽とのことでした。最高の観察日ではなかったけれど 12、3 羽の小さなタカ柱にそれなりの感慨を持ちました!!

2 時に峠を下り帰路につきましたがバスに乗るととたんの大雨、幹事さんの時間配分最高！ 素晴らしい一日でした。孤高の鳥ワシ、タカそれは私達を魅了し、感動を与えてくれます。

探鳥会有難うございました。同室の女性の方々楽しかったです。最後になりましたが幹事さん有難うございました。

【幹事報告】

<認めた鳥> カワウ、ダイサギ、コサギ、アオサギ、トビ、ツミ、サシバ、ハチクマ、ハヤブサ、チョウゲンボウ、キジバト、アオバト、アマツバメ、アカゲラ、コゲラ、ツバメ、キセキレイ、ハクセキレイ、ウグイス、カワガラス、オオルリ、エナガ、コガラ、ヤマガラ、シジュウカラ、スズメ、ムクドリ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス 計 30 種

<参加者> 山本貞江、諏訪哲夫、中野久夫、鈴木静治、吉田隆行、宮下三禮、西巻実、谷山晴男、木村稔、染谷迪夫、間野吉幸、松本勝英、植田啓介、野口隆也、野口洋子、村上稔、佐々木隆、山住良子、石渡成紀、(担当幹事)猪爪敏夫、桑森亮 参加者 21名

11月幹事会開催案内

日時 11月18日(日) 13:30~16:30
場所 アビスタ 工作工芸室(1F)
議題
1. 芋煮会実施体制、作業分担など
2. 報告事項(JBFなど)
3. その他 その他議題あれば事務局へ

9月幹事会報告

日時 9月9日(日) 13:30~16:30
場所 アビスタ1F 工作工芸室
議題
1. JBFの行事と担当の確認について
2. 役員分担の確認
3. 会報199号の記載記事について
4. 市民活動入門講座(仮称)企画案について当会へのお願い
5. 我孫子市手賀沼課より「ムクドリのねぐら調査協力のお願い」について
6. 報告事項(含 検討)
JBF実行委員会経過報告
紙芝居「手賀沼のカラスさん」(作・首藤佑吉、絵・森元夏木)完成
JBF 2007に出展申込み済み

訃報 当会会員の梅村 康之さんが、療養中のところ、10月4日夜、逝去されました。梅村さんは当会の幹事でほーぼーどりを第144号(1998年9-10号)から第180号(2004年9-10号)まで編集されました。生前は明るくお酒が好きで、豪放磊落な方でした。ご冥福をお祈りいたします。

さようなら、梅村康之さん

飯泉 仁

10月4日に梅村康之さんがお亡くなりになったと5日に電話をいただいた。彼との思い出を振り返り、会でのこれまでの御活躍とご尽力に対して心よりお礼を申し上げ、ご冥福をお祈り申し上げます。

1. 梅村さんと会の行事

会報を見返してみると、梅村さんが会の行事に初参加して下さったのは1992年4月12日の手賀沼探鳥会だった。その時のフィールドノートを見返すと曇り時々小雨のあいにくの天気にもかかわらず、冬鳥のカモたち、ムナグロ、イソシギ、タシギといったシギ・チドリ類、サシバと出会うことができた記録されている。初めて手賀沼に足を運んでくれた梅村さんの目にどのようにこの時の思い出が残っていたかはわからないが、冬から春への季節の

移り変わりを実感していただけないかと思う。その後、4月29日のシギ・チドリの個体数調査、5月10日手賀沼水鳥調査で一緒にいただき、6月6~7日の福島県裏磐梯探鳥会に出席して下さった。特に、裏磐梯探鳥会ではかつてないほどアカショウビンの声を満喫し、7日の復路で福島市小島の森でサンコウチョウ、フクロウの声を堪能してバス車中で参加者とうれしそうに歓談していた光景が忘れられない。この探鳥会を境に鳥見人としてスタートし、たくさんの仲間と接することがスタートしたのだった。

2. 大好きだった多摩川河口探鳥会のこと

会報で振り返ると、梅村さんがお出かけになった探鳥地は、入会した年の裏磐梯、多摩川河口、そして伊良湖岬、不忍池、裏妙義、朝霧高原、東京港野鳥公園、軽井沢、筑波山、小見川、富士山奥庭、妙高高原というように各地に足を運んだと記録がある。

この中でも、お気に入りだったのが多摩川河口だった。入会の年に参加した探鳥会の帰り道でのビールの立ち飲みのビールがおいしかった、手賀沼探鳥会とは違う趣がよかったと宿泊探鳥会の折に聞いた。これを契機にして多摩川河口は梅村さんの一番のお気に入りのフィールドとなった。多摩川でも感慨深いのは、胃がんを患って入院・手術をした1996年のこと。胃の全摘手術の入院前に照れくさそうに「長期の出張があって6月の戸隠の探鳥会の幹事ができない」とお電話をいただいた。変だと思いつつも仕事の具合では仕方がないと諦めていた。本当は、胃がんの宣告を受けて全摘手術をすることになっていたとは。でも、この年の多摩川河口探鳥会。この時も灼熱の夏の一日で、現地で私ども夫婦は会のメンバーと合流した。その中に梅村さんの顔があった。しかし、その体重の激減ぶりはただごとではない。でも、どうしてもこの探鳥会に復帰をしてかった彼の強い意志をそこに感じた。彼の復帰を心で祝い、不死鳥のごとく復帰できた梅村さんに敬意と祝福している仲間がそこにいた。この仲間と出会えてよかったと思った瞬間だった。

3. 手賀沼の鳥の編纂と大病

会創立30年記念事業の大きな柱として手賀沼とその周辺地域の鳥類の観察記録、手賀沼の水鳥個体数調査の結果などを整理した手賀沼の鳥の編纂を2001年1月にスタートさせた。印刷業界に精通した梅村さんに委員を委嘱させていただいたのは当然の成り行きだった。委員全員に宿題を出し、次の会合に持ち寄ってもらうといった特訓を積み重ねた。梅村さんにとっては慣れないパソコン操作でさぞや大変だったと思う。手賀沼の鳥完成まで全体会議24回、合宿4回、各作業グループの打ち合わせと作業を加えたとんでもない負担だったと思う。しかし、手賀沼の水鳥を何とか守りたい、残したい、そんな気持ちが鳥に出会いたいという気持ちがあったから成し遂げた編纂作業となった。

しかし、完成まであと一歩となった2004年8月に大事件が発生した。我孫子市の調査を終えて、会報ほーぼーどりの印刷・発送作業の日。市民会館のすぐ近くで梅村さんが突然脳梗塞で倒れた。救急車ですぐ近くの東邦病院に運ばれたが処置できずに取手共同病院に転院された。しかし、転院中に病状が急変したと聞く。病状の急変期に治療が間に合わなかったことがくやしい。どうして彼にだけ大病が襲いかかるのかと思った。しかし、ご本人の生きる強い意志と奥様やご家族の献身的な介添えがあり、2005年5月だったと思うが水鳥調査の時に手賀沼沿岸で奥様とお嬢様に付き添われて野外に出かけることができた。言葉は片言だったけれど、私ども夫婦をはっきり認識して下さった。きっと、話しを交わして笑える日がくると思っていた。

4. 語り合う約束をしたけれど

宿泊探鳥会だったか、ご自宅に伺った時か、飲みに出かけた時だったかは定かでないが、なぜ我孫子野鳥を守る会の名称に“守る”が入っている意味を質問されたことがある。

私が会に入会した当時先達たちから聞かされた、鳥を見て楽しむだけでなく、いとおいしいと思う気持ちを守る活動につなげることを大切にするために会の名称に加えた経緯、手賀沼以外に鳥を見に出かけるのは習性や生息環境を学ぶためのものと申し上げたことがある。加えて、独立した会計をもとに活動し、行政に正々堂々と意見を主張できる組織があることが

必要なことなど夜を徹して話しをしたことがある。これを機に、飲み交わす、語り明かす機会が多くなったと思う。2004年8月の手賀沼の鳥 編纂の最終合宿の夜にも本の完成後は今晚のハモのてんぷらを梅村宅で再度揚げてまた歓談しようと約束をした。彼の人となりや手賀沼への思いをたっぷりと聞かせてほしかった。

思えば、梅村さんは1998年9~10月号から会報の編集を担当し、我孫子市の財政の関係で会に対する補助金が全廃された時も会報コストを抜本的に見直して下さり、会の財政にも貢献してくださった。会にとって大きな方を失った。

訃報の電話の少し前に我が家の前のお宅のアンテナに止まって物まねと高鳴きをしていたモズの声がずっと忘れられない。梅村康之さん、享年67才。合掌。

鳥 だ よ り

07.16 [東中新宿] ツ (1) 9:10、自宅近くで鳴いていた	飯泉久美子	07.29 [鷺野谷] アバ`ス`ク (1) 上で鳴く	志賀鉄雄 電線上で
07.22 [藤ヶ谷] アバ`ス`ク (1) 電線に止まるも飛び去る	志賀鉄雄	07.30 [久寺家] ヒ` (1) 物色飛翔	志賀鉄雄 中野久夫
07.22 [藤ヶ谷] 朴`キ`ス (1) 声	志賀鉄雄	08.02 [曙橋から浅間橋の間] ケリ (6) 飛翔	中西榮子
07.23 [北新田] ヨシ`サ` (1) 2号排水路横草地で囀り	中野久夫	08.02 [北新田] コ`カ` (1) 河川敷で囀り	中野久夫
07.23 [布瀬] 札`サ` (1) 囀り	志賀鉄雄	08.03 [北新田] イ`ソ` (3) 4号排水路で	中野久夫
07.24 [高柳] 朴`キ`ス (1) 声	志賀鉄雄	08.04 [大井新田先手賀沼] チウ`サ` (1) 南部手賀沼方向へ移動	飯泉仁
07.25 [高柳] フ`ウ` (1) 電柱に	志賀鉄雄	08.04 [水道橋] コ`ド`リ (21) 水を張った休耕田で採餌をしていた	飯泉仁
07.25 [布瀬] サ`バ` (1) 木の天辺に	志賀鉄雄	08.07 [北新田] ノ`リ (1) 河川敷柳上	中野久夫
07.26 [塚崎] アバ`ス`ク (1) 声	志賀鉄雄	08.07 [水道橋] イ`ソ` (1) 調整水田で	中野久夫
07.27 [北新田] 竹`サ` (3) 越流堤池から飛立ち	中野久夫・金成典知	08.09 [布瀬] 材`カ` (1) 樹上に	志賀鉄雄
07.27 [布瀬] フ`ウ` (1) 電柱に止まるも飛び立つ	志賀鉄雄	08.09 [箕輪] アバ`ス`ク (1) 電線に止まるも飛び去る	志賀鉄雄
07.28 [片山] アバ`ス`ク (1) 電線に	志賀鉄雄	08.09 [水道橋] ヒ`バ`リ`キ` (1) 採餌	中西榮子
07.28 [布瀬] サ`コ`フ`ウ` (1) 囀り	志賀鉄雄	08.10 [上沼田] フ`ウ`カ`ン`ボ`ウ` (1) 電柱中段に	志賀鉄雄
07.29 [つくし野] 朴`キ`ス (1) 4時半頃鳴き声	中野久夫	08.10 [高野山] ヤマ`ガラ` (1) 水浴	
07.29 [手賀] アバ`ス`ク (1) TVアンテナ			

08.11 [曙橋] チュウキ (2)	平岡孝 9:05、水の入った休耕田で採餌	飯泉仁	09.03 [新柏駅ホームから] サバ (1)	6:45、カラスに追尾され林に逃げ込んだ	飯泉仁
08.11 [上沼田] 材カ (1)	電柱上に	志賀鉄雄	09.03 [つくしが丘] サバ (1)	6:36、住宅地上空をカラスに追尾され増尾方向から出現し南柏方向に渡去	飯泉仁
08.11 [北新田] ハブサ (1)	電柱から飛去	中野久夫	09.03 [東中新宿] サバ (2)	6:34、住宅地上空をカラスに追尾され光が丘方向から出現し増尾方向に渡去	飯泉仁
08.11 [手賀川] ミゴイ (1)	飛翔	志賀鉄雄	09.08 [布佐下] イハヨリ (1)	7:00 屋根に止まる	鈴木静治
08.11 [中沼田] 竹汁 (1)	声と共に飛び立つ	志賀鉄雄	09.12 [北新田] カクシ (1)	ムグリの群れ中、稲刈りあとの耕田で	中野久夫
08.12 [曙橋] コドリ (10)	採餌 染谷迪夫・木村稔・桑森亮・田中功		09.13 [中沼田] ヒ (1)	飛翔	志賀鉄雄
08.19 [東中新宿] コドリ (1)	19:3、住宅地上空を鳴きながら東から西方向に通過	飯泉仁	09.14 [大堀川] イシキ (1)	上沼方向に	志賀鉄雄
08.19 [水道橋] イマキ (1)	採餌	中西榮子	09.14 [北新田] ヒ (1)	東へ飛翔	中野久夫・金成典知
08.19 [水道橋] 材カ (1)	休息	中西榮子	09.14 [北新田] チョウノボリ (1)	電柱から飛去	中野久夫・金成典知
08.20 [久寺家] チョウノボリ (1)	中央学院大学屋上で	中野久夫	09.15 [大井新田先手賀沼] コアサシ (1)	湖面上を飛翔	飯泉仁
08.21 [上沼田] イシキ (4)	岸辺より飛び立ち	志賀鉄雄	09.15 [柳戸] 材カ (2)	15:02 幼鳥、15:29、成鳥が桜の枝に止まった	飯泉仁
08.21 [上沼田] ハブサ (1)	電柱上に	志賀鉄雄	09.17 [大井] 材カ (1)	樹上より飛び立ち	志賀鉄雄
NR			09.17 [北新田] カモ (2)	2号排水路で	中野久夫
08.22 [千間橋] イシキ (6)	岸辺より飛び立ち	志賀鉄雄	09.17 [北新田] オガガモ (1)	2号排水路で	中野久夫
08.23 [布佐] チョウノボリ (3)	18:10 塔に止まる	鈴木静治	09.18 [湖北台5丁目] チョウノボリ (2)	飛翔	赤尾完
08.24 [手賀沼下沼] ミカ (1)	杭に止まる	志賀鉄雄	09.25 [高野山] ミカ (1)	飛翔	笹川昭雄
08.30 [北新田] オジキ (2)	稲刈り田から飛立ち	中野久夫	09.29 [布佐平和台] チョウノボリ (2)	15:00,16:30 飛翔	鈴木静治
08.30 [千間橋] イ (1)	高鳴き	志賀鉄雄	09.30 [浅間前] スリ (1)	7:40 電柱に止まる	鈴木静治
09.01 [北新田] コドリ (2)	青山水門で	中野久夫			
09.01 [酒井根6丁目下田の森] ツミ (1)	11:06、桜の木の枝に止まった	飯泉仁	今回の観察者の総投稿件数		
09.01 [手賀沼上沼] 材カ (1)	飛翔	林に	赤尾完	1	
09.01 [東山1丁目] ツミ (1)	11:15、林の一角で鳴いていた	飯泉仁	飯泉久美子	7	
09.02 [布施あけぼの山公園] イムシキ (2)	11:30~11:53、百日紅の裏の木の枝につくがラムシを食べていた	飯泉仁	飯泉仁	246	
			飯泉仁・久美子	20	
			笹川昭雄	1	
			志賀鉄雄	88	

鈴木静治	8	中野久夫・金成典知	19
諏訪哲夫	2	平岡孝	2
染谷迪夫・木村稔・桑森亮		総計	480
田中功	13		(諏訪哲夫)
染谷迪夫・木村稔・佐々木隆			
田中功	17		
中西榮子	7		
中野久夫	49		

会 員 便 り (ab-birdnet、ab-news より)

オオヨシキリ

昨日(08/24) 片山新田地先の下沼を通りかかった時オオヨシキリがか細い声で鳴いていました。最初はなにか他の鳥かと思ったほどでした。(08/25 諏訪哲夫)

三番瀬探鳥会

三番瀬・谷津干潟探鳥会に参加されたみなさん 幹事の松田です。

暑かったですね、18時現在でも31 あります。

貝に右足指を挟まれたままウミネコから逃げ回っていた「オオメダイチドリ」ですが、我々が鳥あわせをしている間に再びウミネコに襲われたそうで、こちら岸に逃げてへばっていました。

一人の人が降りて救出して、観察センターに持って行きました、掴まれても暴れないので相当弱っているのでしょうか、背中も肉が見えていました。(08/26 松田幸保)

北新田

- ・ハヤブサ1は幼鳥で電柱にとまっていた。
- ・ムナグロ2は鳴きながら飛んでいました。
- ・タシギ1、オオジシギ3は稲刈り田から飛立ちました。オオジシギの飛立ちは8月29日から見られるようになりました。
- ・越流堤付近のウグイスの囀り、8月24日以降聞かれなくなりました。(09/01 中野久夫)

あけぼの公園 ツツドリ

今日、ツツドリを求めて「あけぼの山公園」へ行ってきました。先月末にも行ったのですが、出てくれませんでした。公園に到着して間もなく雷雨に見舞われ、1時間ほど東屋で一休み。晴れたらツツドリが出てくれました。盛んに毛虫を食べていました。画像を添付しますので、ご照覧下さい。なお、ツツドリは先月の中頃から来ているそうです。

(09/10 大久保陸夫)

北新田

北新田の稲刈り、あと数枚残っているだけでほぼ終わりました。

〔我孫子市北新田地区で認めた鳥〕

2007/9/17 5:50-7:40/9:00-11:15 晴・風強 種数:34

カイツブリ 10、カワウ 2、アマサギ 15、ダイサギ 5、チュウサギ 30+、コサギ 7、アオサギ 5、カルガモ 12、コガモ 2、オナガガモ 1、チョウゲンボウ 1、キジ 1、バン 3、コチドリ 12、ムナグロ 2、クササギ 3、イソシギ 1、タシギ 12、キジバト 10、カワセミ 1、ヒ

バリ 20+、ツバメ 5、ハクセキレイ 8、セグロセキレイ 2、ヒヨドリ 5、モズ 6、セッカ 2、シジュウカラ 2、ホオジロ 5、カワラヒワ 50+、スズメ 200+、ムクドリ 200+、ハシボソガラス 20、ハシブトガラス 5

- ・コガモ 2 とオナガガモ 1 は 2 号排水路にいました。9 日にもコガモ 1 が来ていました。
- ・ムナグロ 2 は鳴きながら飛んでいました。9 日には大雨で水の溜まった稲刈り田にムナグロ 20 がきており、一緒にオグロシギ 1 もいました。
- ・このごろ稲刈り田からタシギが飛立つのがよく見られます。数多くきているようですが見つけるのが大変で、飛びたってはじめて気づくのがほとんどです。
- ・セッカの囀り、14 日以降聞かれなくなりました。(09/17 中野久夫)

モズの高鳴き

今日体育館横のネットの上でモズが高鳴きしていました。(09/18 諏訪哲夫)

チョウゲンボウ

久しぶりに鳥だより致します。

今日 9 月 18 日夕方湖北台上空でチョウゲンボウ 2 羽がぐるぐる飛び回るのを見ました。内 1 羽が飛びながらキイキイと鳴いていました。湖北台でタカを見るのは珍しいことです。(09/19 赤尾完)

会報 200 号記念 原稿募集

会報「ほ-ほ-どり」は 1974 年 11 月に 1 号が発行されて以来、次号 2008 年 1 月発行で記念すべき「200 号」を迎えることとなります。記念号特集として皆さんからの投稿をお願いします。

当会に入会時の思い出、記憶に残った探鳥会、当会の行事に対する要望、「ほ-ほ-どり」へのご意見、今後行って見たい探鳥地など皆さんの思いを一言でも結構です。また、ペンネームでも結構です。投稿をお待ちしています。

下記までお寄せください。原稿締切は 11 月 30 日です

投稿先 小玉文夫

270 - 1144 我孫子市東我孫子 1 - 28 - 8

Tel/Fax 04 - 7139 - 8260

新会員の紹介 永井真人(世田谷区)

ほ-ほ-どり No199 2007 年(11 ~ 12月号)

発行 2007 年 11 月 1 日

発行人 我孫子野鳥を守る会 会長 間野吉幸

編集人 猪爪敏夫、小玉文夫、佐々木隆、野口紀子、松本勝英、宮下三禮

事務局 染谷迪夫 〒270 1154 我孫子市白山 1 - 9 - 4 Tel 04 7182 3972

振替 00140 - 2 - 647587 我孫子野鳥を守る会

会費 年会費 2,000 円(大学生・高校生 1,000 円、中学生以下 500 円、家族会員 無料)